

〔釈文〕

水内郡／高井郡／埴科郡／更科郡／筑摩郡／佐久郡／安曇郡／小県郡／伊奈郡／諏訪郡／一ノ宮諏訪大明神  
 松代十萬石 真田信濃守／松本六萬石 松平丹波守／上田  
 五萬三千石 松平伊賀守／高遠三萬三千石 内藤駿河守／  
 高島三萬石 諏訪因幡守／飯山二萬石 本多豊後守／飯田  
 一萬七千石 堀兵庫頭／小諸一萬五千石 牧野遠江守／岩  
 村田一萬五千石 内藤豊後守／須坂一萬五千石 堀長門  
 守  
 抑信陽ハ  
 郡數十郡高五十  
 四万七千三百石に及び  
 日本高土第一の国にて尤  
 山川多く四方に水流なし  
 上々国にて人はしつそにして名産多  
 五こく豊ぎようの国也、然るにいかなるじ  
 せつにや有けん、弘化四年丁未三月二十四日の  
 夜より古今未曾有の大ぢしんにて、山川へんじ  
 寺社人家をつぶし人馬の亡失多く、火災  
 水なんに苦しむ事村里の凶へんつぶさに記し、  
 且ハ 御上の御仁恵良民救助の御国恩  
 を後代にしらしめんが為こゝにするす、もつとも  
 三月陽氣過度なること数日、二十四  
 日夜四ツ  
 時より山なりしんどうなし、善光寺の辺別  
 してつよく、夫ぢしんといふより早く大山ハ  
 くづれおち、水ハあふれ地中めいどうなす  
 より、五寸一尺又ハ五尺一丈と大ぢさけ  
 黒赤のどろ吹き出し火炎のごとき物もへ  
 上がり、御殿宝蔵寺中十八ヶ町の人々ハ  
 おし潰され大ぢにめり込、男女らう少泣声  
 天にひゞき殊にやちうといひにげ迷ひ、大石にう  
 たれ谷川にはまりらうばい大方ならず、其内  
 八方に火えん起りせうしつせり、此辺の村々にハ北  
 ハ大峰戸がくし山上松北松しん光寺西条吉村田子  
 平手宝坂小平落かけ小高大あら町柏原のじり  
 赤川せき川の御関所東ハこんどう間の御所中の

御所あらき青木島大つか間島こしまた水沢西寺尾  
 田中南の方ハ北はら藤枝雨の  
 宮矢代向八まん志川山田小松  
 はらくウ蔵山茶白山丹波島  
 西ハあら安かみや入山田中梅  
 木辺都て、乍恐御代官様  
 御支配の分潰家五千三百  
 九十軒、半潰れ二千二百  
 軒余、但し木品ハ打  
 くだけ用にハ相立す、  
 潰家同様にて死人ハ凡二千七百人けが人  
 九百人程、馬百七十三疋、牛二疋大ぢ  
 にめり込、家数二十軒ほど、宮寺四十  
 六軒、郷蔵二十二ヶ所、是は六萬石ば  
 かりの内也、中にもあはれ成ハ此度善  
 光寺かいちやうにて諸国の参詣の男女  
 同所止宿の者不知案内にてとほうに  
 くれ、二百人余もおしうたれて即死  
 ならず、一生けんめい御仏に願ハんと所の者  
 旅人本堂にかけ入り一心にねんじたる者  
 七百八十余人かかる大災別て此辺つ  
 よく火難の中に本堂山門けう蔵のミ  
 破損なく、さすか末世の今に至るまで三国  
 でんらいえんぶたこんの尊ぞうにて利  
 益の程恐れ尊むべし、本堂は広間  
 十八間奥行三十六間、東西南北  
 四方表門にて寺号ハ則ち四ツ有  
 東ハ定額山善光寺、西ハ不捨山  
 浄土寺、南ハ南めい山無量寿寺  
 北ハ北空山雲上寺、天台宗にて  
 寺領千石尼寺にて由来ハ人  
 のしる所也、扱又水内郡□□  
 に小ふせ神代あさの大くら  
 かに沢今井赤沢三ツ又  
 さかい村茂右衛門村駒たて  
 戸隠小泉どおり大坪曾  
 根北条小さかみわらびふか

さハ、第一飯山御城下ニ至て  
 きびしきぢしんにて、逃ん  
 としてハころび足たたず  
 あをのけにはうより仕方  
 もなく、老子供ハ泣き叫び  
 地ハさけ土砂を吹き出し、山々  
 ハくづれ、男女の死亡丁方  
 にて四百三十人、其外在方  
 多く此内丹波川カハ付村  
 一同に押しながし行方をしらず  
 更科郡ハ内小  
 じまはし本大原  
 和田古いち等かる  
 い沢よしハラ竹房  
 今泉三水あんぞこ  
 小松原くげ寺中の  
 うしろ丁宿家々をた  
 をす、中にも稲荷山にて  
 二十八軒つぶれたる家ハ二十  
 八日にハ大水にをしながし  
 ゆく多不知、ここに岩倉山  
 といふ高山高サ十八九  
 丈にて安庭村山平林  
 むら両村の間に有  
 此山めいどうなし  
 あたかも大雷の  
 ごとく半面両端くづれ、一ヶ所ハ三十丁、一ヶ所ハ八十丁、  
 丹波川の上手へおし入、近村一同にうづまり、こう水  
 あぶれ七八丈も高く数ヶ村湖水のごとく人馬の死ぼう数し  
 れず、同少し北の方に六丈ばかりの岩山  
 有しが是又ぬけおち、五丁程川中へ押し出し、土屋藤倉のりよ  
 う村水中へ押し入、あつミ郡の分新町と申  
 所三百八十軒の里ことくく潰れ其俣出火にて焼失なし、夫  
 より大水二丈ばかり高くミなぎり目も  
 当てられぬばかりにて、宮ぢ犬かい小梅中曾根ふミ入高竹  
 くまくら成金町ほそかへしうら町とどろき村  
 堀金村小田井中ぼり上下鳥羽往吉長尾柏原七日市間々ベ狐

島池田町堀の内曾根原宮本

草尾船堀むら等大破に及ぶ、「小さがた郡は秋和生づか上田御ぜうかにしハ新丁上小じま下

こじま此辺山なりしんとうなし、地中めいどうす今にも大ちがさけるかと此辺のもの共生たる

心ちなくされど大ちのさける程のことハなしといへど、家々ハつづれけが人多く、前田手つか山田別所

米沢くつかけならも一乃沢凡百四十ヶ村ほど「ちくま郡はまんむら辺至てつよく度くゆり返し

にんばそんじ多く、ほうふく寺七あらし赤ぬた泪村おかだ丁松岡ありかし水くみ松本おんぜう下辺

百二三ヶ村ふるひつよく、庄内田貫ちくま新町あらい永田下新かみ新三みぞ飛弾多つちうさかいに至る「佐久間ハ小諸御

ぜうか下西ノ方ハ瀧原市町本丁与良村四ツ谷間瀬追分かり宿右宿くつかけるいざハ赤沢峠町矢

さき山浅間山より上しう口度くつよくゆり川付の方至てひどく夫より「諏訪郡ハ高島御ぜうか

大能高木ハ少くにて八重ばら大日向細谷平はやし布引此辺ハ少く強くゆる、はにしな郡ハ松代御ぜうか近へん二十

四日よりゆりはじめ、二十九日朝晦日夕かたまで三度つよくふるひ大いしを申し出し山くくつれ

やしろへんことにきひしく、人家多くつづれ川付下手のかた山く岩はなくづれ人家をそんじ平

はやしかけむら赤しバ関屋西条せきや川上下とくら中条よこ尾いま井ね川之宿上下しほじりむら等同やう「高井郡のぶ

ん丹波川の東にてすさか御ぜうか中じま御じん屋川へりの村くふくしまた

かなし中じま別府いい田羽場くり林大俣辺より田上岩井安田坂井等つよくふるひ家をたおす

事少なからず、それより多ち路に至りて二十四日よりゆりはじめ段くつよく、二十九日の午の上こくハ大へんのおお

ちしんにて松ざきあら井辺よりくびき郡高田の御ぜうかよりいまだ中屋しき春日辺人家を

くづし、にんばのけがとう多く、其内しんしうよりの方きびしく山くハ一どうに

くづれ水ハあぶれ大ばんじやくをころがし、中にもながさハむらと申す小村ハなさけなくも大山の為につづれ、七十人ほ

とちうにうづまり、わづか

手足のミ相ミへたりあはれと申すも中くおろかなれ、其上二十九日ハ今町辺大なミに引入られ家く流しつすくな

らず、此度信越二ヶ国の大ぢしんハ実にもきたいの珍事にて、いにしえよりぢしんも

数度有之といえどもたいちさけ泥砂をふき出しかくの山くにんばの死亡に及

ひ前代未聞の凶へんなり、ぜんこうじ辺ハ二十四日より二十五日迄きびしく松代多ち路ハ二十九日三十日に至て東西

二十里南北三十里山川をくづしようくちしんハしづまれども山く崩れ、こうぜいあぶれわうぐハ

んにん馬通路ふさぎ、且ちめんわれさけたる所十間位ひ筋つきくろ赤のどろミづ

ふき出し山くくづれ大石ころばり落田畑ことく変地いたし用水所は欠崩れ谷川等ふるひうづまり、一面にどろミ

づふき出し貯への俵物ハのこらずくづれどろ水を冠り地中にうづまり、別して川中島は大水人力にて防く事難く一方にて水を落し候得は、

一方ハ水難にていかやうにも相成も不知、西の方にて防水致せば東の方のある

村々おしながし双方共大變にていかさま騒動にも及ばんくらしいの仕合にて、然る所御見分

の上御下知無之内ハ双方とも手出し致し候事御差留にて早速掘割人足共さしむけたれ候へども、弥こう水溢れミなざり、

此辺の者ハ親にはなれ子にわかれ夫婦の所在もしれず、庄屋村役人其外本心を取失

ひ候ごとく、跡片付の心得もなく潰家の前に家内一同雨露の手当もなくとほうにくれ候只々頻りに

落涙に及び相応ニくらし米穀ハ土をかぶりどろ水入食物の手たんもなく小者なんぎの者ハただ打ふしてなき入てハ

死かいにすかり、けが人ハおびたたく苦つうにたへかね罷あり何レのむらく

同様にてたがひにたすけ合、ちからもなくさしあたり食事にさしつかへ、呑水もかねて用水を持候間皆どろ水にてきか

つに及びあわれというもおろかにて、水内高井両郡田畑七八分ハつづれ家をつぶし道具を失候ぶん八分計りにて

此上いかやうの満水ニも相成候やもハかりがたく川ぎしの

村々山林に退去致し候やはり山々も日々鳴といたし、水勢

(右下)らしいのことくにて一時に切候へば又々水災わかりかたく、諸方御手配りこれありしニ

四月十三日夕七ツ時ニハかに山谷鳴働なし水押ぬき、左右の土手を切り

堤の上をのりこし川中島ハ申不及さい川へ逆水押入中々防くことかな

わず、松代御代下辺迄水ミちて川ぞへ村々を押ながし、高サ二丈計作物ハもち

ろん溺死人けが人多く、村々古今希なる事にて凡三百余ヶ村おながし、二十四日

より大災にて又々かく水なんハたとへんかたもなく、いかに天へんとハ申なからかくの

災害良民とりつき成兼候ほと仕合、然ハ御代官様御地頭様ハ慈母之

子をあハれむがごとく御すくい小屋を立、米銭ハもちろん御手あてあつく

御れんミンにて御すくひあそハされ候段、泰平の御めくミありかたきといふも恐在、

然ハ諸人御こくおんわすれんかため一紙につゝるのミ